

# 育心拓夢

愛媛県総合教育センター所報 No.164  
(令和3年3月11日発行)  
<https://www.center.esnet.ed.jp/>  
〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地  
TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

- 相談支援部長挨拶 …… 1
- 令和2年度調査・研究発表会について …… 1
- 令和2年度調査・研究発表会発表の概要…2・3

- 1年間の研修を終えて …… 4
- 令和3年度研修講座の紹介 …… 4



## 「アフターコロナの学校教育を考える」

相談支援部長 中岡 生文

これまで、「オーバーシュート」「クラスター」「ソーシャル・ディスタンス」等の言葉を耳にすることは皆無でした。急増する新型コロナウイルスの感染者数に危機感を感じ、マスク着用や外出自粛など行動も意識も一変し、三密回避は、ある意味で人類のこれまでの生活様式を否定する事態となりました。教育現場においても、突然の臨時休校、学校再開後も各種行事、大会等の中止や縮小、教育活動の制限など、大きな変化を迫られました。

一人一台端末配備の早期実現を目指す、国の「GIGAスクール構想」は、動画配信やオンライン授業の実施などで加速度的に進行する気配です。本センターにおいても、オンライン研修の実施は今年度の新規事業の一つでしたが、集合研修の実施が困難な状況で、挑戦的に取り組みました。自分のペースで講座を視聴することができた反面、同期の先生方との意見交換や、その場でしか伝わらない講座担当者の思いや熱意を学ぶ機会が失われて残念との受講生の声がありました。

物事には常にプラス面とマイナス面があり、コロナ後の気づきや学びを生かしたいものです。コロナ後の世界は、もはや以前の世界には戻り得ません。中央教育審議会は、初等中等教育改革の一環として、新型コロナウイルス感染症を踏まえた学びの在り方を検討しており、対面と遠隔・オンラインを使いこなす「ハイブリット化」で、協働的な学びを展開するとしています。これからは、対面授業で友達と経験を共有し、人と繋がることを大切にしつつ、一人一人が端末を活用して理解度や関心に応じて個別に最適化された学びを進めていく必要があります。病気療養や不登校児童生徒の学びの保障など、更なる可能性を感じています。

今回の歴史に残る新型コロナウイルス感染症の流行により、教員の働き方や教育の在り方も半ば強制的に見つめ直し、変革を迫られました。AIの進化による誰にとっても便利な「Society5.0」に向けて、これまでの常識を疑い、常に課題を発見する力を養うことが必要です。VUCAと言われる先行き不透明な次代において、AIには決してできない新しい価値観を創造する人材育成が学校教育に求められています。



## 愛媛の子どもたちのために

## 令和2年度調査・研究発表会について

本年度の調査・研究発表会はオンラインでの開催となりましたが、おかげさまで、300名もの多数の参加を頂きました。ありがとうございました。

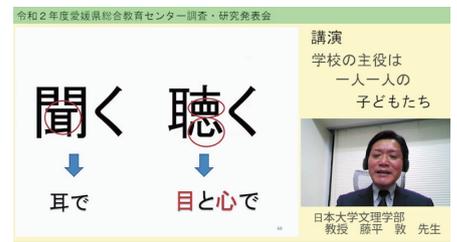
2月8日に、研究主題「未来を創造する力を育む学校教育への総合的な支援」の下、5本の研究発表と、長期研修生2名の発表をライブ配信しました（詳細は次ページ以降を参照）。各発表に対しては、参加者からの熱心な質問が相次ぎ、充実した時間となりました。

各発表の動画は、日本大学文理学部教授の藤平敦先生の御講演「学校の主役は一人一人の子どもたち」の動画とともに、1か月間、オンデマンドでも配信しま

した。

藤平先生の御講演では、愛媛県内の学校等の事例を具体的に紹介しながら、

児童生徒の自己有用感を育むための手立てや考え方について御教示いただきました。参加者からは、「非認知能力と自己有用感を関連付けた話で興味深かった。」や「授業実践の紹介も入っていて、分かりやすくとてもよかった。クイズや考える時間等もあり、楽しく視聴できた。」などの感想を頂きました。



## 企画開発室（発表1）

### オンライン講座を活用した効果的な研修の在り方に関する研究

本研究では、本センターが主管する各種研修にオンライン講座を導入し、教員の職能開発と学校の働き方改革に対する効果を検証することを目的としています。オンライン講座の導入に当たって、所内の環境整備や所員の研修等を進め、最終的に170本を超える動画をオンデマンドで提供しました。オンライン講座の受講者に対するアンケート調査によると、繰り返し視聴できることや集合に係る時間が不要になることなどがメリットとして挙げられ、オンライン講座は多くの受講者から肯定的な評価を得ることができました。また、職能開発の時間を伸長することを目的に、自由に受講できるオンライン講座の利用に前向きな回答も多く、潜在的な受講ニーズが高いことも分かりました。

次年度は、研修効果を高めるための教材の工夫・改善を進めるとともに、自主研修用オンライン講座の提供と評価を通して、職能開発におけるオンライン研修の効果を明らかにしたいと考えています。

## 情報教育室（発表2）

### 小中高における発達段階を踏まえたプログラミング教育に関する研究

#### 一教員研修用教材の開発を通して一

小中高12年間でのプログラミング教育を見通すことのできる研修資料として、「えひめプログラミング教育ウェブハンドブック」を作成しました。

情報技術を効果的に活用して課題解決をすることが重要視される今日、プログラミング教育を充実することで情報活用能力育成の一助としなければなりません。このハンドブックでは、スパイラル的な学習によるプログラミング的思考の実現が期待できる教材・題材群を提案・紹介しています。調査・研究発表会では、発達段階を踏まえ、児童生徒の思考の豊かな育ちを誘引するプログラミング題材の在り方、考え方についての議論を提示しました。

本ハンドブックが、小中高を見通す体系的なプログラミング教育の一助となることを期待しています。



## 教科教育室（発表3）

### 「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に関する調査・研究

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、児童生徒に生きる力を育むことが求められています。

本年度は、基礎研修や出前講座の受講者（特別支援学校を除く）を対象に、授業改善に関するアンケート調査を実施し、取組の状況や課題の分析、考察を行いました。その結果から、学校は、授業改善につながる基礎的内容と、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための手立て等の情報提供を求めているのではないかと捉えました。

組織全体で学び、考えを深めることで、授業改善が進み、児童生徒の学びの質が高まるのではないかと考え、次年度は校内研修で活用できる研修パッケージを作成し、希望する学校に提供したいと考えています。先生方にとって、主体的・対話的で深い研修になるよう、計画を立てています。

## 教育相談室（発表4）

### 不登校児童生徒の自己効力感を高める支援の在り方に関する研究

#### 一適応指導教室「こまどり教室」の活動を通して一

不登校児童生徒数は年々増加傾向にあり、そうした児童生徒への支援が生徒指導上の喫緊の課題となっています。不登校改善のためには、不登校児童生徒に自信を持たせ、自己効力感を高めることが必要であると考えました。そこで、自己効力感を高めるために有効であると考えた解決志向アプローチの発想や技法を組み入れたHSJ法を考案し、本室が運営している適応指導教室「こまどり教室」の活動において実践を行いました。取組の結果、活動意欲を高めたり、自信を持って新たなことに挑戦したりするなど、一定の効果があつたと考えています。

また、本研究に基づいた研究成果物「やってみかねシリーズ：自己効力感を高めよう！」を作成し、本センターホームページに掲載しますので是非御活用ください。



## 令和2年度長期研修生（発表6-1・2）

### 不登校傾向にある児童に対する支援の工夫 一情報共有ファイルを活用した連携を通して一

長期研修生 西山 真奈美

不登校傾向にある児童を対象に、「支援計画シート」を用いて支援目標を設定し、学級担任、養護教諭、保護者ら支援者の役割を明確にしました。その上で、日常の情報共有のツールとして「情報共有ファイル」を活用し、日々の生活の中で児童のできたことや良かったことを本人と確認しながら支援を進めました。その結果、支援者は児童の理解を深めながら、連携を充実させて支援を進めることができました。児童も、ステップでそれぞれの課題を克服していき、不登校傾向の改善及び学校生活への適応力の向上につながりました。

### プログラミング的思考を実現する思考ツールの開発 一算数科図形領域における授業実践を通して一

長期研修生 城岡 英和

論理的思考と自分の考えに自信を持つことに相関性が見られることから、筋道を立てて物事を考えることができれば、自分の考えに自信を持つことができるのではないかと考えました。そこで、論理的に物事を考える経験を積ませるために、プログラミング的思考を論理的な思考方法の一つのモデルとして捉え、児童の思考の補助となる思考ツール「テキシコーカード」と「アルゴリズムカード」を開発しました。そのツールを活用して、プログラミング的思考を意識させる授業を展開したところ、自分の考えへの自信の度合いが、全体的に増加しました。

## 令和2年度調査・研究発表会発表の概要

〔研究主題〕 未来を創造する力を育む学校教育への総合的な支援



## 令和元年度短期研修生 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、短期研修生は調査・研究発表会では発表していません。

### 回折格子による光の干渉の3次元的解明

#### 一ホイヘンスの原理を用いた考察と条件式の導出一

川之江高等学校 永井 瑞樹

回折格子による干渉光が円錐面上に進む理由を、ホイヘンスの原理を用いて3次元的に説明することと、回折格子による干渉条件を、3次元座標軸で表現することを目的とし、実験、観察を通して理論の解明を行いました。成果として実測値とよく一致する理論値が導出できました。今後、研究内容を教材化することで、生徒の多面的な能力の育成につなげたいと思います。

### カラムクロマトグラフィーの簡易化と授業実践

南宇和高等学校 渡部 甫

混合物の分離・精製を行う手段であるカラムクロマトグラフィーを高等学校の授業で扱うために、装置の簡易化とその装置を利用した授業方法について検討しました。装置の簡易化により、1時間の授業で実験・考察を行うことができ、カラムクロマトグラフィーの原理や物質の相互作用について理解を深めることができると考えます。

### 愛媛県の海岸におけるマイクロプラスチックの汚染調査

東温高等学校 曾根 伸

愛媛県の海岸8か所所で採取したマイクロプラスチックの数と種類を分析し、各地域の産業との関連について考察しました。その結果、農業が盛んな地域では化学肥料のカプセルが多く、漁業が盛んな地域では養殖筏に<sup>いかだ</sup>使われる発砲スチロールが多いことが分かりました。海洋汚染の防止のために、プラスチック削減に向けた産業の在り方を検討する必要があります。

### 化石を用いた古環境の推定

#### 一探究活動を取り入れた授業の研究一

今治北高等学校 片岡 誠志

微化石を用いた観察実習において、古環境を考察する探究活動を行うために、最適な材料（化石）として貝形虫を選定し、授業の展開方法について研究しました。貝形虫では、現生するものと化石との比較が可能であるため、生徒は示相化石への理解が深まったと思われる。今後も、生徒が探究活動の楽しさを感じることができる教材開発に努めたいと思います。

## 特別支援教育室（発表5）

### 知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究

#### 一生活単元学習の授業づくりを通して一

平成29年4月告示の特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では、児童生徒の生きる力を育むために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが示されました。そこで、知的障がい教育における生活単元学習に焦点を当て、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一助となる資料を作成し提供することで、特別支援学校や特別支援学級での授業の充実が図られると考え、2か年継続の研究に取り組むこととしました。

1年次である本年度は、協力学校でアンケート調査を実施し、その結果を基にして「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれの具体的な姿や、それらの学びの姿を引き出すための年間指導計画・単元計画・授業計画を考える際のポイント、授業づくりの課題を明らかにすることができました。

次年度は、協力学校において授業づくりの課題解決を目指した授業実践を行うとともに、生活単元学習における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一助となる資料を作成し、各学校に提供したいと考えています。

### 本センター研究の成果について

本センターの研究成果物はホームページからダウンロードすることができますので、ぜひ、御活用ください。アドレス <https://center.esnet.ed.jp/>

# 1年間の研修を終えて



<初任者研修>

「人との関わり」

砥部町立砥部小学校  
教諭 國米 敏宏

学級経営や教育相談の講義などから、子どもと信頼関係を築くことが基本であることと、その大変さを再確認しました。また、研修で学んだことを実践に生かしていく中で、素直な気持ちで接することの大切さに気付くことができました。子どもたちに、良いことも悪いこともすぐに言葉で伝えてきましたが、その積み重ねにより、子どもたちからの話や相談の回数が増え、信頼関係につながったのではないかと感じました。

コロナウイルスの影響で研修が中止や変更になる中でも、初任者研修をやり遂げることができたのは、いつでも相談に乗ってくれた学校の先生方や指導をしていただいた指導主事の先生方のおかげだと思います。目の前にいる子どもたちのために、これからも日々研さんに励み、資質を高めていきたいです。



<キャリアアップ研修Ⅰ>

「学び合える仲間がいること」

しげのぶ特別支援学校  
教諭 関 芳子

本年度の研修は、例年と異なり対面での研修は限られていました。そのような中でも、受講者同士で協議をした時は、同じような悩みを抱えながらも、それぞれの先生が工夫していることや配慮していることを聞くことができ、大変有意義な研修となりました。研修を通して、子どもの気持ちを丁寧にくみ取ることや、学習環境を整えることの大切さを多くの先生方と共有できたことは、教師としての財産となりました。

これからは、ICTを活用した授業など、従来とは異なる授業形態に対応しなければなりません。しかし、支援の方法が多様化しても、子どもと一緒に「できた」喜びを共感し合える教師であるために、日々努力し、謙虚に学び続ける姿勢を持ち続けていこうと決意を新たにしました。

## 令和3年度研修講座の紹介

**基礎研修**は、初任者及び新規採用教員研修、フォローアップ研修、キャリアアップ研修Ⅰ、キャリアアップ研修Ⅱ、キャリアアップ研修Ⅲを実施します。

**専門研修**は、全21講座を開設し、受講者の特定分野における専門性や実践的指導力の向上を図ります。

**課題別研修**は、全58講座を開設します。基礎的内容の実践力向上研修と応用的内容のキャリアデザイン研修の二つのカテゴリーに分け、先生方のスキルやキャリアステージに応じた研修を実施します。新規講座として、「【情報】ICTを活用した授業改善クラウドサービス活用」「【情報】小学校におけるプログラミング教育の授業づくり」「【中・技・家（家庭）】生徒の主体的な学びを促す家庭科の授業づくり」を開設します。

**サテライト講座**は、市町教育委員会と連携した研修として実施します。訪問、オンライン（オンデマンド型・

リアルタイム型）に対応した9分野19講座を開設します。

**出前講座**は、従来行っている訪問研修に加え、新たにオンライン（オンデマンド型・リアルタイム型）による講座やオンライン会議システムによる研修を実施します。指導案審議の助言をオンライン会議システムにより行う「出前講座ライト」（新設）、校内研修を行う「出前講座（通常版）」、研究を支援する「出前講座ワイド（拡大版）」の3本立てとなります。

**えひめ教師塾**は、5月から6月にかけてオンライン協議を含めて6回の実施を計画しています。

その他、派遣研修である長期研修、短期研修を実施しています。研修の詳細い内容については、「研修のしおり」を御覧ください。「研修のしおり」は、本センターホームページからダウンロードすることができます。

本センターは来年度も、教員研修の一層の充実に努めてまいります。

### 交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指して、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。



### 所報「育心拓夢（いくしんたくむ）」について

この言葉は本センターが現在の地に移転した昭和57年頃、当時の所員が作った言葉で、敷地内にある石碑に刻まれています。「総合教育センターでは、子どもたちが確かな学力を身に付け、豊かな『心を育む』こと、また、自らの力で未来への『夢を拓く』ことができるように学校支援を行う」という強い思いが込められています。